

⑲ *arimis* は次の第七行に見る如く、*arimis* と書かれるのが普通の形であるから、多分その書違ひに外なるまい。

⑳ 本書には「問曰」に對して *cūdāki sōzlar*, 「答曰」に對して *sastiragari sōzlar* の形を用ゐて居る。*sastiragari* は *sastir* (*sāstra*)—*gari* で論を作るの意を答に對せしめたのであらうが、*cūdāki* は何と解すべきか、或は之も外國語に發するものかも知れない。

後記

この稿を草した後、ビブリオテーク・ナショナル所藏のヤソミトラの俱舍論の疏を、榊博士の手寫して藏せらるゝものにつき、同博士から初の一部を譯讀して貰つた所によると、こゝに見た安慧の實義疏も、其の中に攝取せられて居るやうである。また寺本婉雅氏より、丹珠爾の中に、安慧の俱舍論釋があると聞いて、初の一二頁を照合したが合致しない、共に他日精細に研究すべきである。

(白鳥博士還曆記念東洋史論叢、大正十四年十二月)